

『希望の思想 プラグマティズム入門』 第5章 さらなる「連帯」へ

■要約

「地球上のどれくらいの人々と連帯することができるのだろうか？」

↓

アメリカの哲学者 R.ローティの思想に着目しながら考察。

- ・正義の原理と、属する共同体への忠誠心によって生まれる葛藤がある。(これは、心理的な距離によって変わる)
- ・しかし「拡大された忠誠心」「感情をベースとする結びつき」により、連帯の範囲は、ヒトという種を超えて可能になる。

- ・ローティは、ロールズの「重なり合うコンセンサス」「暫定協定」という考え方を、プラグマティックであると評価。
- ・他方で、ロールズが他の文化圏にも適用可能は普遍性を備えていると主張した「万民の法」に対しては疑義。

功利主義による正義論から考察。

- ・功利主義では、ある行為が、どれだけの快苦を生むのかに着目し、快苦を感じる能力があれば、等しく同じ人間として扱われる。
- ・倫理学者 P. シンガーは、苦痛を感じることができる(有感)イルカなどの高等動物を殺すことは「種差別」とであると批判。

- ・ローティも、シンガーと似た主張をし、シンガーを評価しているが、その一方「困惑」もしている。
- ・シンガーが判断基準とする「苦痛」は科学的合理性に基づくもので、すべての生物に共通して当てはめられる尺度。ローティは「感情によるつながり(忠誠心を含む)」を判断根拠にしている点が大きな違い。

- ・「苦痛」を感じることができるかどうか判断基準を置いてしまうと、それが無いと見なされたら、人間の「仲間」というカテゴリーから外されてしまう。
- ・人間には、憎い敵兵であれ、動物であれ、思わず感情移入し、「私たち」と同じであるという共感が生まれるもの。

・ローティは、「正義」(合理的な思考に基づく、忠誠心と葛藤が起こる)を、「拡大された忠誠心」とし、「合理性」については、「高度に発達した感情」であるとする中で、「仲間」であると感じられる範囲をもっと広げられるという提案をしたのであった。

- ・ローティは、プラグマティズムを「ロマン主義的な功利主義」と解釈することで、共感の為の「感受性」をより高められると主張。
- ・ローティによれば、プラグマティズム、功利主義、ロマン主義、いずれもが「多神論 Polytheism」的である。

- ・ローティが「感情」を重視したのは「合理性」に基づく正義の構想が、「感情」と対立してしまう状況を乗り越える為。
- ・互いに相いれない価値観同士の対立や断絶を乗り越えて連帯し、「重なり合うコンセンサス」を形成し、より「大きなコミュニティ」を作るためにも「感情教育」が重要。
- ・文学、映画、演劇、ドラマ、歌といった表現に触れることで、生きることに伴う苦悩と喜び、痛み、悲しみ、不条理を知り、より鋭敏な感受性を養うことができる。

- ・ただし、ローティは、理性や合理性に基づく正義の構想に対して、そのすべてが「感情」に基づくものとして、ひっくり返そうとした訳ではない。もし感情のみを根拠としたなら、そこに「怒り」「嫌悪」なども含まれ、連帯不可になるからだ。
- ・プラグマティズムの特徴の一つは、二項対立を解体し、そこにはそもそも対立など存在していなかったということを示す点にある。
- ・ローティは、正義の構想において、一見相いれないような「理性と感情」、「合理性と忠誠心」を、それぞれ揺るがし、同じものを別の角度から見ているが故にそうなっていることを示したのである。

■感想

- ・「感情によるつながり」があれば、すべてのヒト、種を超えての「連帯」が可能。そう考えるプラグマティズムだから、希望の思想、ということかな。
- ・ただ、仮にこちらが「共感」の感情を持っていたとしても、相手にそれが無ければ、どうなる？(例: ナチス第三の男)
- ・「感情」に向き合うことは、意識的にしていけないと、その感覚が鈍りそう。

■皆さんと意見交換したいこと

- ・皆さんは、すべてのヒト、種を超えての「連帯」は、可能 と考える？

- ・感受性を高める「感情教育」の方法には何が？ 皆さんは、どのような「感情教育」を？

以上